



# 奈良女子大学 記念館一般公開

旧奈良女子高等師範学校本館《重要文化財》

2022.4/29(金祝)～5/5(木祝)

午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)

入場  
無料  
予約不要です

## 特別展示

## 奈良女子高等師範学校の教材

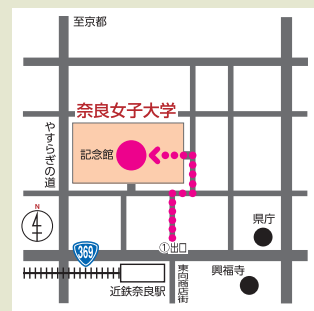
—明治から昭和初期における教養教育—

### 交通

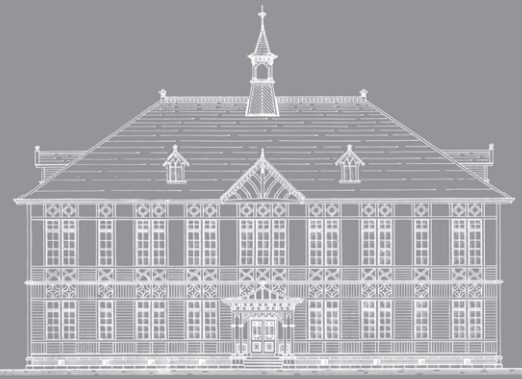
近鉄奈良駅①出口から徒歩約5分  
JR奈良駅から市内循環バス  
近鉄奈良駅前下車徒歩約5分  
※車でのご来場はご遠慮願います。

### 連絡先

奈良女子大学 総務課  
〒630-8506 奈良市北魚屋東町  
TEL.0742-20-3220  
FAX.0742-20-3205



# 奈良女子大学 記念館について



奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校は1908(明治41)年3月に設置され、翌年5月から授業を開始しました。校舎の工事は1908(明治41)年2月からはじまり、翌年10月には主要な建物が完成しました。現在、奈良女子大学記念館としている建物は、奈良女子高等師範学校本館としてこのとき建設されたものです。設計は京都帝国大学建築部長で奈良出張所心得の山本治兵衛が行いました。

木造二階建てで、外観の大きな特徴は、北欧によく見られる木部を外に表す壁構造のハーフティンバー形式をとっており、屋根には頂塔およびドーマー窓が設置されていることにあります。1階は中央に廊下が配され、これを挟む形で7室が設置されています。建物両端にある階段で2階に上ると、フロア全体が大きな講堂となっています。講堂内には柱は用いられず、中央部に二重に織り上げた天井には明かり取りの窓が配され、広々とした空間が広がります。

1994(平成6)年2月から6月にかけて改修工事が行われ、同年12月27日に正門および守衛室と併せて重要文化財に指定されました。その後も空調設備工事・外壁改修など、その時々適切な修理を行い、2014(平成26)年12月25日から2015(平成27)年12月にかけては、これまでにない長い時間をかけて大規模な耐震補強工事を実施しました。この工事に際しては、文化庁・奈良県の指導を受けて、歴史的建造物の文化的価値を損なうことのないよう、細心の注意を払い設計、施工がなされました。

日本館は建設以来、改変された箇所はほとんどありません。現在も2階講堂内部には奈良女子高等師範学校開校当時から使用されていた長椅子がそのままに並び、開校時に購入した最も古い国産ピアノのひとつであるとされる「百年ピアノ」が置かれ、往事を偲ぶことができます。

## 特別展示 奈良女子高等師範学校の教材 —明治から昭和初期における教養教育—

奈良女子大学は、昭和初期に海外製足踏み式ミシンを複数台購入しています。戦前から実際の教育現場で使用されていた資料として貴重であるだけでなく、近代日本で販売されていた初期の海外製のミシン資料としても非常に価値の高いものです。近代日本では、明治期に富裕層から浸透し始めた洋装の文化とともに、ミシンおよびミシン教育が発展しました。奈良女子高等師範学校では、早くから授業に和裁だけでなく洋裁が取り入れられました。



海外製足踏み式ミシン



天目茶碗



本膳

漆器・標本類の資料は、奈良女子高等師範学校が購入あるいは寄贈を受けたものです。漆器の膳、食膳具、水差しなどは昭和初期までに購入され、大正15年に家事科教員によって著された『寫真による作法實習記録 本膳の饗應』によると奈良女子高等師範学校での作法の教材として用いられたと考えられます。工芸品の工程見本や和紙標本は購入年等の詳細は不明ですが、生活環境学部で保管されていたもので、奈良女子大学になった後に寄贈されたものも含まれます。